

第16回 いしのまき本の教室

街には本屋さんが必要です！

横浜の「本屋・生活綴方」のあり方から 本のある場所の可能性をひらく



横浜東横線の小さな駅・妙蓮寺の駅前、昔ながらの小さな商店街にある「本屋・生活綴方」は
〈本を売る場所〉=新刊を扱う書店です

〈本を作る場所〉=リングラフ印刷でZINE（冊子）を発行しています

そして

〈人が集まる場所〉

人々の暮らしのそばで、これからのまちの本屋さんにはどんな役割を果たせるのか、
「生活綴方」を舞台にさまざまな実験を繰り返す中岡祐介さんに、その発想と実践をうかが
います。後半のワークショップでは、この日のために用意されたオリジナルのリングラフ冊
子を作ります。まちを面白くするアイデアが詰まった「本の教室」です。

2022年

12月9日(金) 19時 -

出演

中岡祐介 (編集者・三輪舎)

鈴木雅代 (本屋・生活綴方店長)

聞き手

丹治史彦 (編集者・信陽堂)

会場

石巻まちの本棚

宮城県石巻市中央 2-3-16 たん書房ビル 1F

オンライン配信もあります

主催 石巻まちの本棚、一箱本送り隊、ISHINOMAKI2.0



石巻まちの本棚

ISHINOMAKI BOOKSHELF

横浜・妙蓮寺駅前の昔ながらの小さな商店街にある「本屋・生活綴方」を通じてこれからのまちの本屋さんにはどんな役割を果たせるのか参加者のみなさんと考えます。後半のワークショップでは、この日のために用意されたオリジナルのリソグラフ冊子を作ります。ご自身で用意する写真やテキストでオリジナルのリソグラフ冊子の制作も可能。ぜひご参加ください。



中岡祐介

1982年、茨城県生まれ。「おそくて、よい本」を旗印にする出版社「三輪舎」を営みつつ、「本屋・生活綴方」（横浜・妙蓮寺）を監修する。町のひとと本をつくるレベル「生活綴方出版部」を主宰。編集した書籍に『本を贈る』（若松英輔ほか）、『タゴール・ソングス』（佐々木美佳）、『私の生活改善運動 THIS IS MY LIFE』（安達茉莉子）など。本づくりとは、誰かの歩みを緩めること。本を売るとは、手をつなぐこと愛すること。

第16回 いしのまき本の教室

「街には本屋さんが必要です！」

横浜の「本屋・生活綴方」のあり方から本のある場所の可能性をひらく

出演 中岡祐介（編集者・三輪舎）

鈴木雅代（本屋・生活綴方店長）

聞き手 丹治史彦（編集者・信陽堂）

参加費：1,500円

日時：2022年12月9日（金）19時～21時（開場19時半）

定員：15名（事前予約制）

会場：石巻まちの本棚

<お申し込み方法>

件名「12/9本の教室」

②お名前

③人数

④連絡先（電話・メールアドレス）

を下記メールアドレスまでおしらせください。

メールアドレス bookishinomaki@gmail.com

【オンライン配信決定！】

今回新型コロナの影響で、会場に人数制限を設けています。そのため多くの人に参加していただきたいと考え、前半トーク部分をオンライン配信することにしました。この機会に遠隔地からでもご参加できますので、ぜひとも気軽にご参加ください。



↑オンライン配信申し込み先
オンラインストア
参加費1,000円